

西山上人の和歌

西山上人の和歌

みちの国へ罷りける時、関を越えて後、白川^{註1}
の関はいつくぞと尋ね侍りければ、過ぎぬる
所こそ彼の関に侍りつれと蓮生法師申し侍り
ければ光台の不見^{註2}も思ひ出だされて

證空上人

○ 光台に見しは見しかは見ざりしを聞きてぞ見つる白川の関^{註3}

註2 (新千載和歌集卷第八 羈旅歌)

○ 生きて身を蓮の上に宿さずば念仏申す甲斐やなからん

註3 (観経厭欣鈔卷中之本)

註1 国歌大観歌集より引用。

① みちの国 異本に「陸奥」

② 白川 異本に「白河」

③ 蓮生 実信房蓮生をさす。

④ 不見 国歌大観歌集には「ふみ」

⑤ 聞きて 国歌大観歌集には「聞

て」

⑥ 白川 異本に「白河」

註2 この歌の書き記された最初の

ものである。他の伝本はこれ

を引用したものである。

⑦ 生きて 厭欣鈔には「いきて」

⑧ ば 厭欣鈔には「は」

註3 この歌の書き記された最初の

ものである。他の伝本はこれ

を引用したものであろうか。

ところで「時宗統要篇」におい

ては「読み人知らず」として

伝えられている。

○ 弥陀たのむ身と成りぬれば中々に暇はありて暇なの身や

註1(観経厭欣鈔卷中之本)

○ 山賤が白木の合子そのままに漆つけねばはげ色もなし

註2(西山上人伝報恩鈔卷第七)

○ たたらふむいもじがいがた土なれど中に黄金の仏こそあれ

註3(西山流伝法密書〔十通の裏書〕)

○ 南無阿弥陀ほとけのみなど思ひしに唱ふる人のすがたなりけり

註4(西山国師要話録)

① たのむ「厭欣鈔には「頼む」ば「厭欣鈔には「は」

② この歌の書き記された最初のものである。他の伝本はこれを引用したものであろうか。

③ が「報恩鈔には「か」異本に「の」

④ つけねば「報恩鈔には「つけずは」異本に「つかねば」

⑤ はげ「報恩鈔には「はげ」異本に「禿」又は「剃げ」

⑥ この歌を西山上人のものと伝え記すのは「円光大師行状画図翼賛卷四十八」が最初である

⑦ 「報恩鈔」が最初である

⑧ ところが「大言海」には夢窓国師の歌として出ているし、また他の本では白隠禪師が古歌として引用されていたともいう。

⑨ 「裏書」では濁音符を記していない。

⑩ いもじ「鑄物師」をさす

⑪ 黄金「裏書」には「金」

⑫ 異本に「小金」又は「こがね」

⑬ この歌は、古来、鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮に参籠して感得したものであると伝承されている

⑭ 記されたものとしてこれは最初のものである。

⑮ みな「異本に「御名」

⑯ 唱「異本に「称」

⑰ 「西山国師要話録」に上人の歌として載せられているけれどもその典拠を明していない。

⑱ 「西山国師要話録」に上人の歌として載せられているけれどもその典拠を明していない。

⑲ 「西山国師要話録」に上人の歌として載せられているけれどもその典拠を明していない。

⑳ 「西山国師要話録」に上人の歌として載せられているけれどもその典拠を明していない。